

アカイカ 北太平洋

Neon flying squid *Ommastrephes bartramii*



管理・関係機関

北太平洋漁業委員会 (NPFC)

生物学的特性

- 最大体長・体重：外套長約 60 cm・体重約 6 kg
- 寿命：1 歳
- 性成熟年齢：約 10 か月
- 産卵期・産卵場：秋～春、南西諸島～小笠原諸島、ハワイ諸島
- 索餌期・索餌場：春～冬、亜寒帯境界～移行領域
- 食性：魚類（ハダカイワシ類中心）、頭足類、甲殻類
- 捕食者：メカジキ等

利用・用途

てんぷらやフライ等の惣菜、燻製したものやスライスカットした珍味等の加工原料。
 なお、2022年6月に本種の流通名を「ムラサキイカ」とすることとなった。これは地域によってケンサキイカやアオリイカ、ソデイカ等も「アカイカ」と呼ばれること、海外産のアメリカオオアカイカ（通称、アメアカ）と混同される場合があること等のためであり、国産アカイカの差別化を目的に変更された。

漁業の特徴

1970年代中頃から我が国のいか釣り漁業が漁獲を開始した。1970年代後半には我が国の流し網漁業も漁獲を開始し、1979年からは東経170度以西を釣り漁場、以東を流し網漁場とする規制が実施された。1980年代にはいか釣り漁業は縮小し、流し網漁業が中心となり、韓国と台湾も参入した。しかし、公海域における流し網漁業が国連決議により1992年末をもって操業停止となったことを受けて、我が国のいか釣り漁業が近海で復活し、その後、東経170度以東にも出漁するようになった。また、この頃、中国のいか釣り漁船も多く操業するようになった。2000年頃から再び我が国のアカイカを対象としたいか釣り漁業は縮小し、数百隻と言われる中国漁船を中心に台湾及び韓国いか釣り漁船が東経170度の沖合から日本近海にかけて操業してきた。近年は冬春生まれ群の資源の減少に伴い、中国漁船も秋生まれ群を対象とする操業（東経170度以東の北太平洋中央部）にシフトしてきている。我が国のいか釣りの漁期は、日本近海における冬春生まれ群（西部系群）を対象とする冬漁（主漁期1～3月）と、北太平洋中央部における大型の秋生まれ群を対象とした夏漁（5～10月）に分けられる。

漁獲の動向

1970～1990年代初めには主に流し網により漁獲され、1980年代の漁獲量は、漁業国・地域の総計ではおよそ12万～33万トン、我が国ではおよそ12万～22万トンであった。公海流し網操業停止後の1994年以降ではいか釣りにより漁獲されている。流し網操業停止後の我が国のいか釣り漁獲量は1995年から1999年にかけて2万～4万トン前後であったが、近年は、夏漁と冬漁を合わせて1.0万トンに満たない水準である。これは漁船の隻数の減少の影響が大きい。冬漁は、近年は不漁が続いており、2015年、2016年と2年連続でほとんど水揚げがない状態であった。2017年、2018年は2年連続で500トン以上の水揚げがあったものの、2019年以降は低調な水揚げとなっている。一方、夏漁は、2019年に漁期を拡大したことで2019年、2020年は7,000トン以上と漁獲量が増加傾向にあったが、2021～2023年は操業日数の減少に伴い漁獲量が減少した。中国の漁獲量は、1990年代後半に増加して1999年にピーク（約13万トン）を記録し、2000年代まで8万～13万トン程度で推移した。2010年代は減少傾向にあり、2020年～2023年は1万トン前後で推移している。

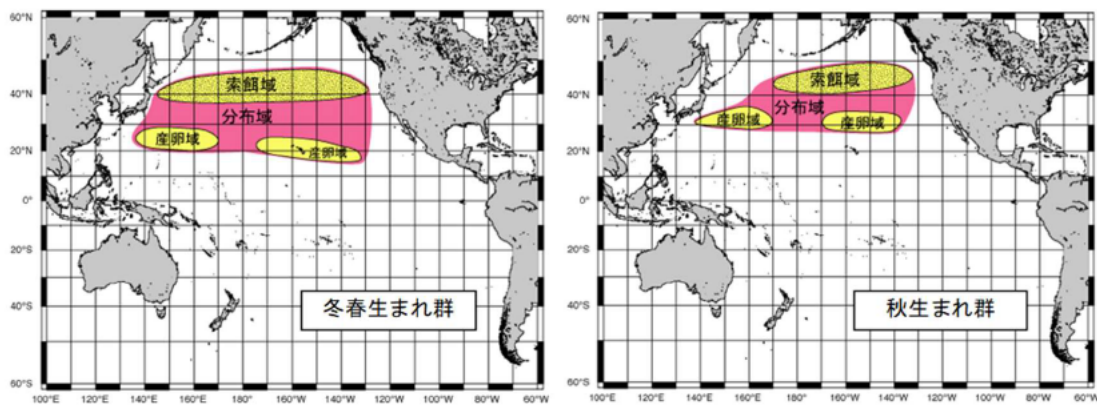
資源状態

アカイカの秋生まれ群を対象とした流し網調査では、2001～2024年における秋生まれ群のCPUEの平均は0.51尾／反であり、2024年は0.03尾／反と過去最低となった。2001～2024年における最低値（0.03尾／反；2024年）と最高値（1.40尾／反；2020年）の差を3等分し、この間の資源水準を低位、中位、高位に区分した基準で判断すると、2024年の資源水準は低位で、資源動向は減少傾向にあると判断される。

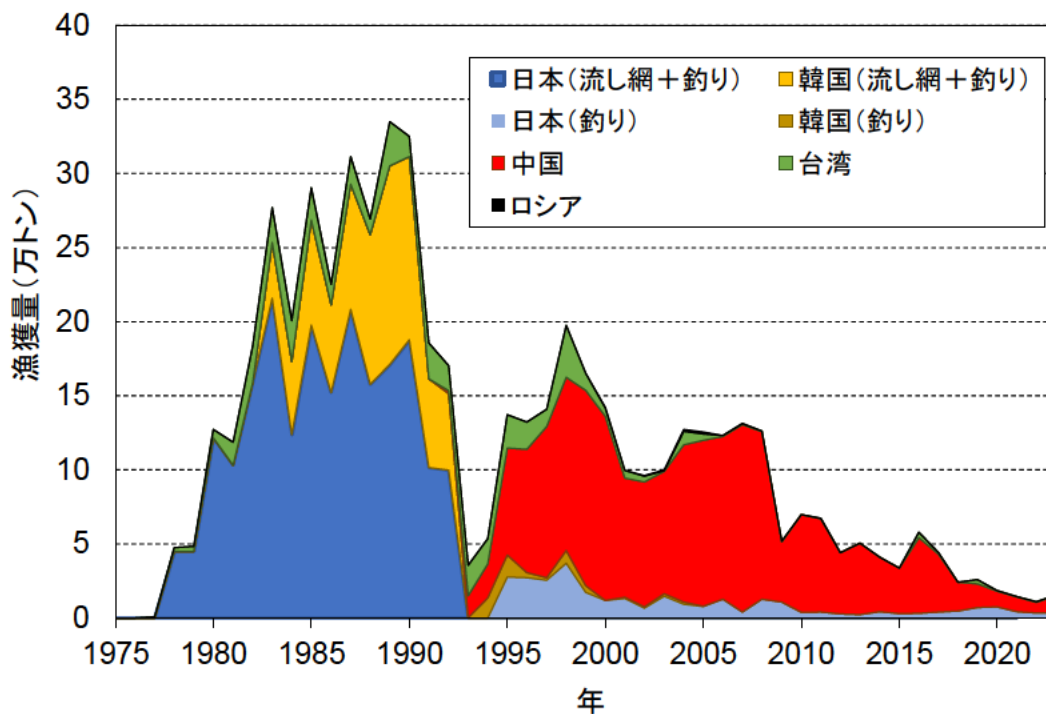
冬春生まれ群を対象とした調査では、2006～2024年における冬春生まれ群のCPUEの平均は2.75尾／反であり、2024年は4.30尾／反であった。2006～2024年における最低値（0.86尾／反；2021年）と最高値（8.41尾／反；2008年）の差を3等分し、低位、中位、高位に区分した基準で判断すると、2024年の資源水準は中位で、資源動向は増加傾向にあると判断される。

管理方策

北太平洋におけるアカイカの資源単位として4系群が提案されている。しかし、資源管理上は極めて複雑であることから、NPFCの科学委員会においては東経170度を境にして東西で統計データの集計が進められている。2024年にはアカイカ資源の評価と管理の助言を目的としたアカイカ小科学委員会がNPFC科学委員会の下に設立され、同年8月開催された第1回会合では、アカイカ漁業を行っているNPFC加盟国・地域による漁業情報や漁業と独立した調査結果について情報交換・議論するとともに今後実施する資源評価の手法や計画について協議した。なお、NPFCでは、アカイカを対象として操業する漁船の許可隻数を現行以上に増やさないという保存管理措置が2021年より導入されている。



アカイカ冬春生まれ群と秋生まれ群の分布域（漁場は索餌域に形成される）

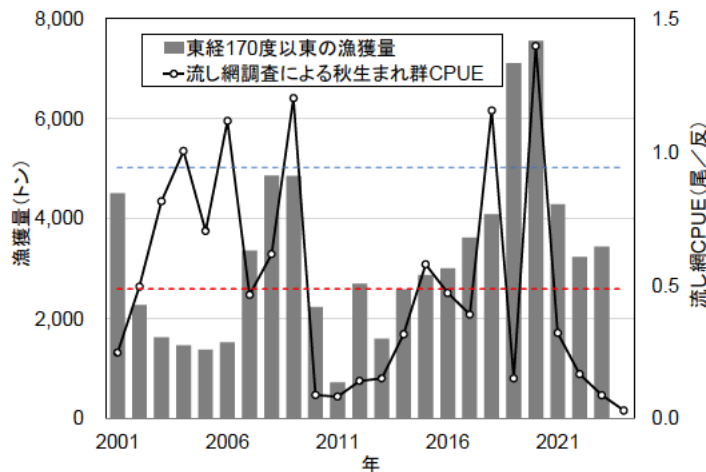


北西太平洋海域のアカイカまたはイカ類*の漁獲量（1975～2023年）
 各国・地域の1975～1994年の漁獲量はFAO統計、1995年以降は主にNPFC報告資料を基に作成。
 *FAO統計資料は北西太平洋海域のVarious squids及びCommon squidの漁獲量を一部含む。

アカイカ（北太平洋）の資源の現況（要約表）	
世界の漁獲量 (最近5年間)	1.1万～2.6万トン 最近(2023)年:1.6万トン 平均:1.7万トン(2019～2023年)*1
我が国の漁獲量 (最近5年間)	0.3万～0.8万トン 最近(2023)年:0.3万トン 平均:0.5万トン(2019～2023年)*2
資源評価の方法	流し網調査 CPUE により水準と動向を評価
資源の状態 (資源評価結果)	・秋生まれ群:流し網調査のCPUEをもとにすると資源水準は低位。資源動向は減少傾向。 ・冬春生まれ群:流し網調査のCPUEをもとにすると資源水準は中位。資源動向は増加傾向。
管理目標	未設定
管理措置	公海大規模流し網禁止(国連決議) アカイカを対象として操業する漁船の許可隻数を現行以上に増やさないという保存管理措置(NPFC:2021年導入)
管理機関・関係機関	NPFC
最新の資源評価年	2024年
次回の資源評価年	未定

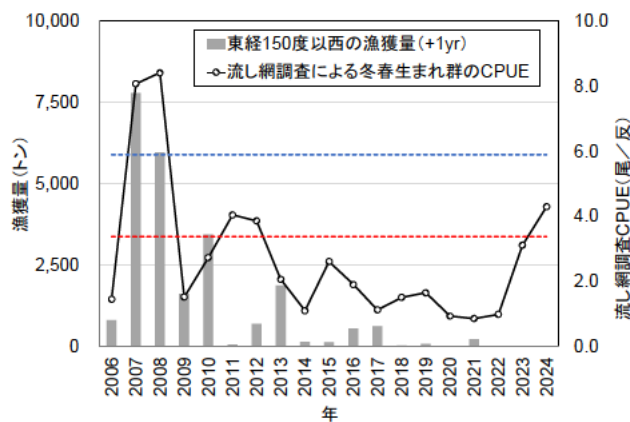
*1 NPFC 資料

*2 漁獲成績報告資料



夏季流し網調査によるアカイカ秋生まれ群 CPUE と東経 170 度以東海域における我が国のアカイカ漁獲量の推移 (2001～2024 年、漁獲量は 2023 年まで)

破線は 2001～2024 年の調査流し網の CPUE の最低値と最高値の差を 3 等分した水準を示している。
赤色破線以下は低位、青色破線以上は高位、赤色破線と青色破線の間を中位と判断。



夏季流し網調査によるアカイカ冬春生まれ群 CPUE と東経 170 度以西海域における我が国のアカイカ漁獲量の推移 (2006～2024 年、漁獲量は 2023 年まで)

破線は 2006～2024 年の調査流し網の CPUE の最低値と最高値の差を 3 等分した水準を示している。

赤色破線以下は低位、青色破線以上は高位、赤色破線と青色破線の間を中位と判断。

なお、流し網調査は 6～8 月、我が国の漁獲は 1～3 月と年が異なっているため、流し網調査の年に棒グラフを合わせている (+1yr)。